

スキー協通信

東京都勤労者スキー協議会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル4F (3971) 4144
ホームページ: <http://www.tokyoskikyo.org/>

No.310

発行

2009.8.1

発行責任者: 小川 洋

第42回定期総会開催



東京スキー協は6月21日、新宿スポーツセンターに於いて第42回定期総会を開催しました。

お忙しい中を来賓として駆けつけて頂いた大山とも子都議会議員、スポーツ連盟都連盟副理事長の北川さん、全国スキー協田畠常任理事からそれぞれ挨拶を頂きました。

総会は代議員総数109人に対し74人が参加し、総括、方針、予算・決算を採択、新しい役員を選出して無事終了しました。

目次

東京スキー協第42回定期総会報告	1 ~ 4 頁
第42期東京スキー・全国スキー協日程表	5 頁
第26期全国スキー協代表者会議報告	6 頁
information	7 頁
8月・9月のカレンダー	8 頁

代議員からの発言	(抜粋)
宿谷代議員（雪けむり） 会員の技術向上は各クラブの指導員が中心に行うのが本来の姿だと思うが、指導員がいないクラブや少ないクラブもある。 自分がどれだけ上達したかを自覚するチャンスが指導員受験しかない。 そこで、指導員研修会や指導員養成実技伝達、レベルアップ講座に併せて一般のスキー講座を開催してほしい。 検定会と同時に S T T を開催してはどうだろうか？	3名と42期は1名増で迎えています。指導員は1名と少ないので増やしていく努力をしていきます。
鮎沢代議員（日野・風花） 各クラブのクラブ機関紙（会報・クラブニュース etc）を通してクラブ間の交流をはかろう！	井上代議員（モルゲンローテ） 初めて東京スキー協のジュニア行事に参加した。参加者していた子供が「来年から塾があるから行けない」と言っていた。二極化が進みスキーに行ける子、行けない子が極端になっているのでは？学校行事の減少もある。
東京スキー協は「スキー協通信」を毎月発行しているが、各クラブの活動が充分に反映しているとは言い難い。各クラブが出している機関紙を収集して、機関紙を通してクラブ間の交流をはかれる対応を考え欲しい。	中川代議員（わかくさスキー同人） 東京はスノーボードの活動が後ろ向きに思える。全国は年に4回の行事を組んでいる。東京でも独自行事を一度くらいは開催したい。その為にも複数の指導員が必要だ。
川島代議員（日野・風花） 昨年度のクラブ総会で会費値上げについて討議、「値上げするまえに色々努力してみよう」との結論になりました。ニュースをEメールで、Eメールが無い人はメール便で、運営委員会は公共施設を利用していく等の工夫を重ねてきました。また、会費についてもまめに連絡をとり会費納入率は100%になっています。スキーメイトも会員すべてが購読。会員外の人が3人読者となっています。	三浦代議員（ウィークデー） 40周年行事の一環として、他県のクラブと合同で行事を開催して好評だった。これからも継続して取組んで行きたい。
41期は退会1名、休会1名、新入会員	田畠代議員（こなゆき） 今シーズン5～6回、山スキー教室でリーダーを担当した。後継者が少なく、組織が弱体化してきている。積極的にリーダー養成に取組む必要がある。
	長谷川代議員（コロポックル） 「スキー協通信」にクラブ通信のコーナーを新設してはどうか？
	指導員派遣について、対応が遅すぎて信頼を失いつつある。
	倉崎代議員（ラ・ランドネ） 東京の問題ではないが、救出基金の通知が来るのが遅い。不信感を感じる。最低での1月、2月ぐらいには通知が欲しい。

長谷川代議員（てんとおむし）

指導員が2名に増えました。指導員養成以外にも東京スキー協主催の「教程技術の講習会」があればもっと活性化するのではないか。

ホームページのアクセスカウンターの数字がおかしい？閲覧者が少なすぎてがっかりしている。

小柳代議員（モルゲンローテ）

今年で32回を数える三多摩の春休みスキーは、教職員組合の婦人部（女性部）が、モルゲンローテに教室開催を要請し、バス2台でやってきた行事。スキーブーム全盛のころは30以上の教職員組合の支部が冬休みに親子スキー教室をやり始めた。しかし、今スキー教室を開催しているのは10支部以下になっている。

また、指導員がいなく、個人的なつながりでS A Jに依頼している。

川上代議員（中野スノー）

クラブ交流平和駅伝は11クラブ、8チーム、41名の選手で開催されました。シーズン中とは違った交流ができるとても楽しい行事だ。是非、参加していないクラブは参加して欲しい。

40周年記念ウェアがきっかけで北海道の糠平スキー場で、帯広の大平原スキークラブとの交流ができた。ビデオを撮っていたら赤いウェアが飛び込んできた。声を掛けたらスキー協ということだった。

食事をしながら近況を伝え合い、日程を調整し合って来年も会うことを約束した。

渡辺代議員（ぶるるん）

職場で「スキーに行きたい、連れていって欲しい！」と言われた。嬉しい話だが、

その人は派遣労働者で、たいへん賃金が安く「じゃあクラブに入って、たくさんスキーに行きましょう」とは気軽に誘えない。今、社会でも問題になっている「ワーキングプア」これを何とかしないと若い世代のスキー協の新会員は望めず、衰退は目に見えている。雇用のルールが必要だと思う。

五十嵐代議員（こなゆき）

今年は小学生から75歳の人まで、山スキー、深雪・急斜面、ポール教室、リーダー養成などで講習をした。レベルアップの時はテーマを決めてもらってどう習得するか的を絞った講習を心がけている。

「平和スキーまつり」の帰りのバスの中で毎年年齢を重ねるので技術向上は難しいと感じる人が増えているのでレベル別のスキー教室では要望に応えきれない。

疲れない、省エネスキーを目指した講習も必要だ。

芝代議員（シュプール）

40年もクラブが続くとは誰も思ってはいなかった。皆で一緒にやってきたらこんな年になっていた。技術面でもクラブ運営の面でもスキー協にずっと育てられているなと感じている。最近クラブ員が増えている。いろんな機会にクラブ員を増やす努力が増えていている。継続的に続けて行くことが大切だ。

増田代議員（エーデルヴァイス）

昨年秋から不況の影響で残業代が0円になった。だいぶ厳しい。派遣・アルバイトが辞めなくなった。

若い人の中で深雪が流行っている。お金がないから車中泊している。

今年30周年を迎えたのはスキー協

のお蔭だと思っている。

駅伝の日程について、自転車愛好者が多く、大会と日程が重なっている。できれば11月8日に変更して欲しい。そうすれば全面的に協力します。

近藤代議員（練馬ヒューマン）

教育技術局の責任者として、指導員派遣について反省している。「冬のページェント」への不手際の理由は 指導員派遣の体制が弱まっている 指導員への告知が遅かった 日程が各クラブやスキー協行事と重なっている。ことが挙げられます。

「冬のページェント」についてはすでに日程が決定しているので、この場で告知します。2010年1月9から11日です。

吉田代議員（スノーモンスター）

東京競技大会について。最近競技レベルが上がってきている。昔は下手な人がいたが、今はあまりいない。ほとんどの選手がワンピースにヘルメットで普段、競技をやらない人から見ると敷居が高く「私の来るところではない」という印象があるのでないか？財政面からいうと参加者が少ないと赤字になってしまふ。

ビギナー、初心者も気軽に楽しめるようなシステムを考えて欲しい。

長谷川代議員（コロポックル）

スキー協の良さは自由な発言が保障されていること。台東区の体育指導員をしていたが会議で批判的な発言をしたら、副会長を下ろされてしまった。

各クラブが多様な取組みをしている。情報交換をスムーズに出来るように努力して欲しい。

井上代議員（モルゲンローテ）

オリンピックと石原都政について発言。

（申し訳ありませんが割愛します。詳しくは都連盟のニュースを参照）

木村代議員（ラ・ランドネ）

東京山スキー講座は初心者を対象にしています。ピクニック気分で参加してもらえた嬉しい。

長部代議員（三多摩山スキークラブ）

スキーメイトの編集に携わっている。メイトが3,000部を割っている。皆、自分自身のものになっていない。東京スキー協からの投稿が殆んどない。

山も若いボーダーが多くなってきている。指導員はスキーの他にテレマークやボードも必須にしてはどうだろうか？

新藤代議員（エーデルヴァイス）

傷害対策基金や救出基金の変更、スポーツ連盟の見舞金制度の説明を議案書に掲載して欲しい。

川上代議員（中野スノー）

駅伝やスノージャンボリーで「スポーツは平和とともに」というスローガンを掲げてアピールしている。アフガニスタンの子供たちは戦争しか知らない。「平和が欲しい」と訴えていた。スポーツができことが平和なのだと実感した。

末広代議員（スラローム）

傷害対策基金やスポーツ連盟の見舞金制度について資料を見て確認したい。

矢口代議員（ラ・ランドネ）

救出基金の件についてはきっちり明文化して出すべきだ。

事故は起こりうるし、大事故になることもある。そのときに「実は対象がでした」とかならんたらまずい。

第26期全国スキー協代表者会議報告

6月13日～14日の日程で26期全国代表者会議が開催されました。

石川理事長の報告・提案のあと各専門部からの報告と提案、決算報告の後、議長提案で参加者約60人から1分間スピーチ。その後、討論に入りました。

約2日間の討論の後、方針、決算報告、予算は満場一致で採択されました。

40周年ウィークならびにFSGT交流事業の大成功をバネに5,000名の会員と2,500名のスキーメイト読者を目指して奮闘する決意を新たにしました。

代表者会議で採択された方針(概要)

、組織拡大の取り組み

第26回総会以後、09シーズンの全国スキー協の活動は、創立40周年を5000人の会員で迎えよう40周年事業を成功させようという方針のもとで、第35回全国スキー競技大会(その前日のポール練習会)から始まった「40周年記念ウィーク」を、SFGTとの交流や多彩な行事、記念式典・レセプションなどで成功させました。また、40周年記念事業の冠をつけた独自の行事を地方スキー協・ブロックが積極的に取り組んだところもありました。

しかし、5000名の会員と2500のメイト読者で40周年を迎えようと目標を掲げた組織拡大の取り組みでは、目標を実現できていません。

この3～4年のあいだに、新しいクラブが出来て奮闘している県スキー協もありますが、全体的にみると停滞を脱しきれていません。私たちはこの組織的課題をこれからも真正面にかかげ、第2期の課題として次の2点を重点に取り組んでいくことにします。

1、県スキー協は3クラブ、100名以上で構成することを目指す

2、新たなクラブ結成と、必ず新会員を迎えるクラブの取り組みを進める

3、会報、HPなど、外に向けた情報発信を重視します

4、試されずみの組織運営を原点にもどつて確立できるよう、全国的な交流を進めます。

、専門分野の強化・指導員の活動について

技術教育局

1、教程解説ビデオの制作・頒布

2、デモの認定と活動

3、派遣要請

4、指導員規定改訂について

5、テレマーカスキーの組織化と普及

技術部

1、教程普及活動

2、4「シ」の「ターンの質を高める」DVD制作

競技部

1、サマーレーシングキャンプについて

- 2、スキー協カップ スーパーG 2連戦
 - 3、第36回全国競技大会の課題
 - 4、大会運営マニュアルの作成
 - 5、情報の共有とフィードバック
- 山スキー部
- 1、安全な山スキーの普及（研修のあり方の具体化）
 - 2、全国・各ブロック行事の成功を
 - 3、安全対策と山スキーリーダーの養成・研修会の取り組み
 - 4、テレマークスキーとネイチャースキーネットワークの前進と定着
 - 5、山スキー部常任部体制の強化と各地の部員選出
 - 6、スキーメイト内容の充実と読者拡大に取り組む
- スノーボード部[2010シーズン行事予定]
- 1、スノーボードフェスタ
1/16～17湯の丸
(養成・研修、一般講習)
 - 2、スノーボードフェスタ
2/13～14ひるがの高原
(養成・研修・一般講習)
 - 3、全国競技大会 今年もボード部上位入賞目指し参加します。
 - 4、第6回検定会 3/13～14
湯の丸（研修・一般講習・検定会・技能テスト）
 - 5、指導員研修会 /4/3～4
指導員研修、一般講習会
「スキー教程」制作の経験を生かし、
今年11月にボード教程書の発刊に向
けて取り組みます。
 - 、スキーメイトについて
 - 1、スキーメイトの活用について

- 2、全会員購読を目指す取り組みの強化
 - 3、宣伝拡大誌の扱い方の変更
 - 4、スキーメイト担当者は、毎号読者数の把握と配布・集金の徹底を
 - 5、1年に1度、読者名簿情報をクラブに提示
 - 6、指導員資格にチャレンジする会員はスキーメイト読者になることが前提
- 、環境・安全の課題について
- 1年度は、傷害予防の視点から「ヘルメットの着用」の推進、新保険業法による自主共済規制への対応として「傷害・救出基金」の改正、地球温暖化防止への啓蒙活動を中心に取組んできました。
- ヘルメットの着用推進については、ヘルメットの斡旋をとおして、安全への問題意識を高める取り組みを行ってきました。今後も、ヘルメットの着用推進に向けて取りくみます。
- 山スキーの「救出基金」の規定改正
- 山スキー分野の「傷害見舞金」制度への移行が難しいことから、「救出基金規定」を改正し、山スキー部門に限った傷害対応を行います。
- 「国内スキー等安全基準」改正
- 全国スキー安全対策協議会では、「アメリカ・コロラド州スキー安全法を参考」にする方向がしめされています。この内容がわかるよう、資料収集していきます。
- 地球温暖化防止に向けた「国内対策の抜本的転換を求める署名」の取り組みを引きつづき進めます。また、温暖化防止の啓蒙活動としてキャンペーン「シール」を活用していきます。

information

技術部主催

プラスティー講習会

日 程：第1回：2009年8月22日(土)～23日(日)

第2回：2009年9月26日(土)～27日(日)

会 場：丸沼高原スキー場

集 合：初日午前9時 スキー場センターハウス前(ゲレンデ側)

解 散：2日目正午

宿 泊：石窯カフェと宿 Cou 屋(旧名称 ペンション アルフ)

群馬県利根郡片品村丸沼高原 TEL:0278-58-4151 丸沼高原第2ペンション村)

参加費：¥16,000 / 1泊2食、交流会費、傷害保険含む

定 員：第1回10名 / 第2回20名(第2回)

申込み締切：第1回8月11日(火) / 第2回9月15日(火)

申込み先：東京スキー協教育技術局(第1回担当：出崎福男)(第2回担当：近藤安宏)

事務所 TEL/FAX：03-3971-4144 / 第1回担当者携帯電話：090-4756-8086

同 E-mail:fukuode_ski@jcom.home.ne.jp

第2回担当者携帯電話：090-1619-7390

教育技術局主催

スキーセミナー2009

日 時：9月6日(日)13:00～

会 場：新宿スポーツセンター

参加費：事前申込み2,000円

当日 2,200円

内 容：1部 「世界を目指すトップスキーの今」

清澤恵美子さん(チームクレブ所属)

戦歴 高校選抜GSSG 総合優勝

全日本選手権GSSG 優勝

ユニバーシアードSG 銅メダル

アジア大会GS 優勝

国体成年A 優勝

国体成年B 優勝

2009Far East CUP 種目別総合優勝 FIS通算38勝

2部 全国スキー協2009年度版教程解説DVD「ターンの質を高める」

安増研一さん・長谷川好秀さん

8月・9月のカレンダー

8月	東京スキー協	全国スキー協	9月	東京スキー協	全国スキー協
1日(土)		反核マラソン	1日(火)		
2日(日)			2日(水)		
3日(月)	通信編集会議		3日(木)	常任理事会	
4日(火)			4日(金)		
5日(水)			5日(土)		山スキー部会
6日(木)	教育技術局会議		6日(日)	スキーセミナー	〃
7日(金)			7日(月)		
8日(土)	40周年実行委員会		8日(火)		
9日(日)			9日(水)		
10日(月)			10日(木)	第3回理事会	
11日(火)			11日(金)		
12日(水)			12日(土)	インライнстレート	
13日(木)			13日(日)	〃	
14日(金)			14日(月)		
15日(土)			15日(火)		
16日(日)			16日(水)		
17日(月)			17日(木)		
18日(火)			18日(金)		
19日(水)			19日(土)		
20日(木)			20日(日)		
21日(金)			21日(月)		
22日(土)	プラスキー		22日(火)		
23日(日)	〃		23日(水)		
24日(月)	通信発送		24日(木)		
25日(火)			25日(金)		
26日(水)			26日(土)	プラスキー	
27日(木)			27日(日)	〃	
28日(金)			28日(月)	通信発送	
29日(土)		サマースポーツセミナー	29日(火)		
30日(日)		〃	30日(水)		
31日(月)					